

大賀郷中学校 2年生

生徒の学力向上を図るための調査に関する

分析と改善

国語

○分析

軒並み東京都の正答率の平均に近い数値であった。知識・理解と読む力が2%程度低かった。読み解く力に関する内容は、取り出す力・解決する力が5～6%低い結果となった。

○授業改善に向けて

＜国語への関心・意欲・態度＞

☆単元の「目標」やその時間の「ねらい」を明確にしましょう。

◆この単元でどのようなことに取り組むのか。＝〈活動のゴール〉

◆この単元でどのような力を身に付けるのか。＝〈学習のゴール〉

何に取り組む中で、どのような力を身に付けていくのかを明らかにする。2つのゴールを明確にし、目的意識と到達後の自分のイメージをもたせて学習に取り組ませる。

＜読む能力＞

☆問題解決的な学習活動を設定し、読んだことを基に自分の考えをまとめたり、互いの考えを交流させてものの見方や考え方を広げたり深めたりすることの指導を充実させる。

＜言語についての知識・理解・技能＞

☆語彙を豊かにし、語感を磨く指導の充実を図りましょう。

漢字の指導を語句指導と関連させ、語彙を豊かにしたり語感を磨いたりしていけるよう指導する。

社会

○分析

東京都の平均と比べ、資料活用の技能の数値が6%低かった。知識理解が1%低かった。読み取る力も弱い。反面、関心・意欲・態度と思考・判断・表現は1～2%高い結果となった。

○授業改善に向けて

<資料活用の技能>

☆地理的技能を育成する指導の充実を図る。

世界の諸地域の学習においては、地球儀、世界地図、地図帳、衛星画像などを活用し、学習成果を世界地図上や略地図上に表現するなどして、地理的技能の育成を図る。地図帳にある主題図、その他写真資料などの地理情報を活用する際に、主題図から読み取れることをまとめるとともに、グループ活動等で表現し合う学習活動を多く取り入れる。

<社会的事象についての知識・理解>

☆生徒自身が調べ、まとめる指導の充実を図る。

都道府県庁所在地名を日本地図で確認したり、自然及び社会的条件という視点から都道府県庁所在地の共通性を探りながら調べたりするなどの学習活動を取り入れる。

数 学

○分析

東京都の平均と比べ、関心・意欲・態度が10%低く、知識理解は15%も低い結果となってしまった。思考・判断・表現と技能は東京都の平均とほぼ同じ正答率だった。また、読み解く力に関する内容において、読み取る力23%解決する力は15%も低くなってしまった。

○授業改善に向けて

<数学への関心・意欲・態度>

☆数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする指導の充実を図る。数学を学ぶことへの意欲を高めるとともに、数学的活動に主体的に取り組むことができるようにし、数学のよさを実感できるようにする。

<数量や図形などについての知識・理解>

☆既習事項を生かし、新たな知識を構成する指導の充実を図る。

数学は、系統性を重視し、それまで学習した事柄に基づいて新しい内容を構成していくので、どれくらい既知事項を生かすことができるかが重要であり、反復学習とともに、数学的な見方や考え方を通して知識を習得し、次の問題解決の際に生かせるような指導を心掛ける。

理 科

○分析

東京都の平均と比べ、思考・判断・表現が7%低かった。実験の技能は逆に8%高い数値になった。読み解く力に関する内容はすべてにおいて、東京都の平均より低かった。

○授業改善に向けて

＜自然事象への関心・意欲・態度＞

☆学習したことから疑問をもったことを深める探究的な学習場面を設定する。単元の学習終了時に、学習したことから新しく出た疑問について、探究的な学習場面を設定し、学習意欲を向上させる。

＜科学的な思考・表現＞

☆「結果が、なぜそのようになるのか」理由を考える学習場面の設定をする。

観察・実験を行う際に仮説を立てさせたり、実験計画を立てさせたりしてから、実験・観察・実験を行い、「結果が、なぜそのようになったのか」について、仮説に戻って考えさせる。

英 語

○分析

東京都の平均と比べ、全部の領域で平均を下回った。特に関心・意欲・態度は38%、思考・判断・表現は20%も低かった。読み解く内容については、東京都の平均とほぼ変わらない数値であった。

○授業改善に向けて

＜コミュニケーションへの関心・意欲・態度＞

☆生徒が意欲的に取り組めるような言語活動を設定する。

授業で行う言語活動では、情報を伝え合う必然性があることや、情報を伝え合う際の相手意識があることなどを踏まえた上で進めることが、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度を育てていく上で大切であり、電子メールで週末の話題を扱うなど、実際のコミュニケーションの場面を設定するとともに、生徒が読みたいと思う題材を扱って、意欲的に読むことができるようにする。

<外国語表現の能力>

☆生徒が伝えたいことを伝えられるようにする指導の工夫をする。

ある程度まとまった分量で表現する際は、伝えたいことを図に書き出してみたり、メモに書いたりすると、思考を整理することができます。このような活動を授業の中で必要に応じて取り入れて、生徒が既習事項を使いながら自分の意見や気持ちを表現することができるように指導していく。

<言語や文化についての知識・理解>

☆既習事項を意味のある文脈の中で触れさせることを通して定着を図る。

文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点を置いた授業を行うのではなく、生徒がコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて語彙や表現を適切に活用することができることを目指して指導を工夫し、定着を図っていく。小学校で学んだ語彙や表現などの学習内容も含め、既習事項を意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れさせ、使えるようにする。そのために、生徒の言語運用能力を高めることを踏まえた状況設定や題材選びを工夫する。